

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年4月17日 午後7時～8時30分
会 場 元福岡集会所

参加者 35人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆防災無線について、川越市の内容はよく聞こえるが、肝心のふじみ野市のものはまったく聞こえない。場所の影響等もあると思うが、どこに設置しているのか。高さにもよると思われるが、完全に聞こえるようにしてもらいたい。
- ☆本日業者を呼んでスピーカーの向きを変えた。併せて、現状において全市域で2割程度ダウンさせている音量についても変更した。この措置をとっても改善されない場合は、また考えさせていただく。

- ◆参集訓練では90%の参集率だったと聞いたが、災害時における具体的な市の体制は。運用規定等あるのか。
- ☆災害対策本部の設置基準に達しなかった東日本大震災のことを踏まえ、国や県の防災計画の見直しの状況と合わせて、ふじみ野市も見直しを行っていく。現行防災計画においても、各避難所には指定職員が配置されているので、市民の皆さんにはお知らせしていきたい。

- ◆直下型が発生した場合のこの辺りの災害被害想定は、どのようなものか。
- ☆東京湾北部地震の発生想定として、震度6弱を想定しての家屋全倒壊が23棟、半倒壊が453棟、死亡2人、負傷者82人、断水による影響46,000人、避難者16,000人を想定しているが、これは平成21年度の想定なので、今後、県で見直しを図った結果としては、これ以上になる見込み。

- ◆今日の会議の記録を取っておく必要があると思うが。
- ☆記録は作って市のホームページや広報紙に掲載していく。

- ◆元福岡地区は高齢者が多い。指定避難所となっている葦原中よりも川越市の寺尾小の方がよっぽど近いので、一時的な連携でもいいから図れないものか、この地区に限らず市境の住民は同じ悩みを抱えているはず。
- ☆目安として避難場所を定めているが、緊急時をしのぐための方策は臨機応変な対応が必要だと考えるので、隣接する自治体とは今後一緒に対応を進めていく。

◆自主防災組織について、時間帯によっては若手が確保できない状況があり大変不安だが、対処法などについて教えて欲しい。

☆組織率が低いという実態が非常に懸念される場所ではあるが、元気な高齢者の方の役割や身体が動かせる中学生の役割など、日ごろからの地域連携が何より重要ではないだろうか。

◆自分の命は自分で、家族の命は家族で、人を頼らず対処しようとして自分と言い聞かせている。必要な資機材を完備し、訓練も実施し要援護者対応体制も作り上げたい。公助よりも自助や共助で乗り切らねばならないのが、これまでの災害の教訓。行政のやれる範囲は限られているので、自分たちで守っていききたい。

◆自治会組織の中でプライバシーの侵害にならない程度、地域の家庭状況等を掴んでおく必要がある。元福岡は液状化が非常に心配。市の対策は、調査は、情報は。

☆危険地帯ではあると思うので、雨水対策と合わせて検討していききたい。要援護者把握については、確かに個人情報保護の観点から壁があるが、大事な情報なので何とか進めていききたい。新しく建設される消防本部の指令台には、関連する新しいシステムがあり高機能を果たすと聞いている。

◆A 坂（桜の木がある道）について、歩道が無くて困っている。既に自治会長から市には要望済みと聞いているが、その後の対応はどうなっているのか。

☆財政状況が厳しい中、優先順位を付けてやらざるを得ない。元福岡、川崎、清見地区については、道路課とともに車の進入等についても配慮していききたい。

◆津波の影響があるか。

☆県で行っている防災計画見直しに伴う調査結果を待って判断したい。

◆机の下や廊下が安心等の説がある。また、家屋の倒壊の場合は1階にいたら助からない。2階が安心。

◆災害時には声が届かないので家族に笛を持たそうとしている。役所でも手当てしてもらえたらありがたいが、購入する場所もよくわからない。

☆購入するための情報などについて、周知していききたい。

☆みなさんの求めに応じ、当然市も体制を整えて避難場所に向かうし、併せて、自衛隊 32 連隊もこの地域を助けに来てくれると信じている。